

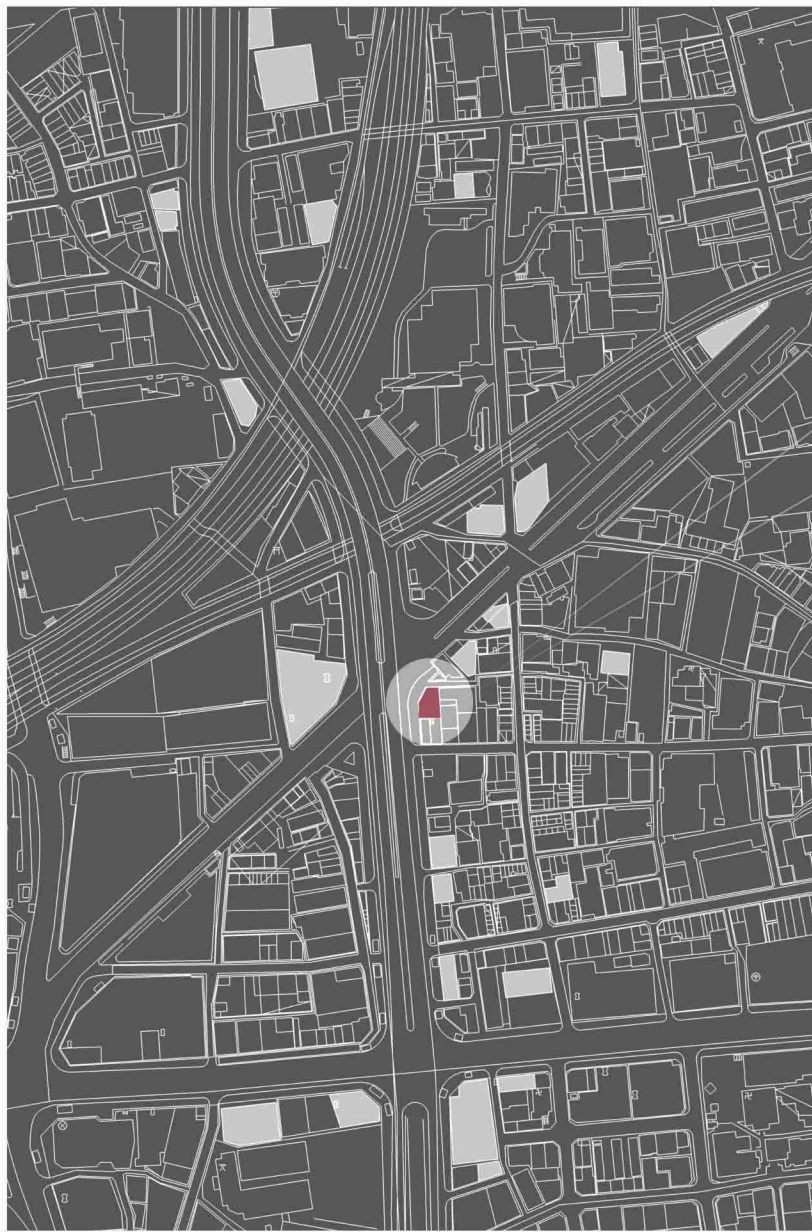


海暑の都会、その道路を車で走れば様々な看板が目に入る。
彩りはしばしばビッドであり、目を引くのに必死のようである。
その中で一際高く、窓の広い車のはじに見えるのは塔屋看板だ。
遠く高いその広告の大きさなどに思いを馳せれば、
歩道橋から見ると信号機が案外大きいことを思う。
あの塔屋看板の大きさに人は住むのだろうか。
都会をゆく人の装いは大通りに向けて発光する広告のようだ。
ゆえに、看板裏の骨組に住みつく
部屋着の人々をたちまち想像するのである。

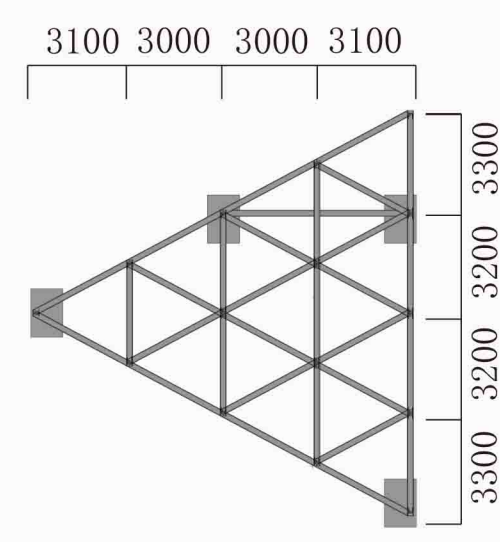
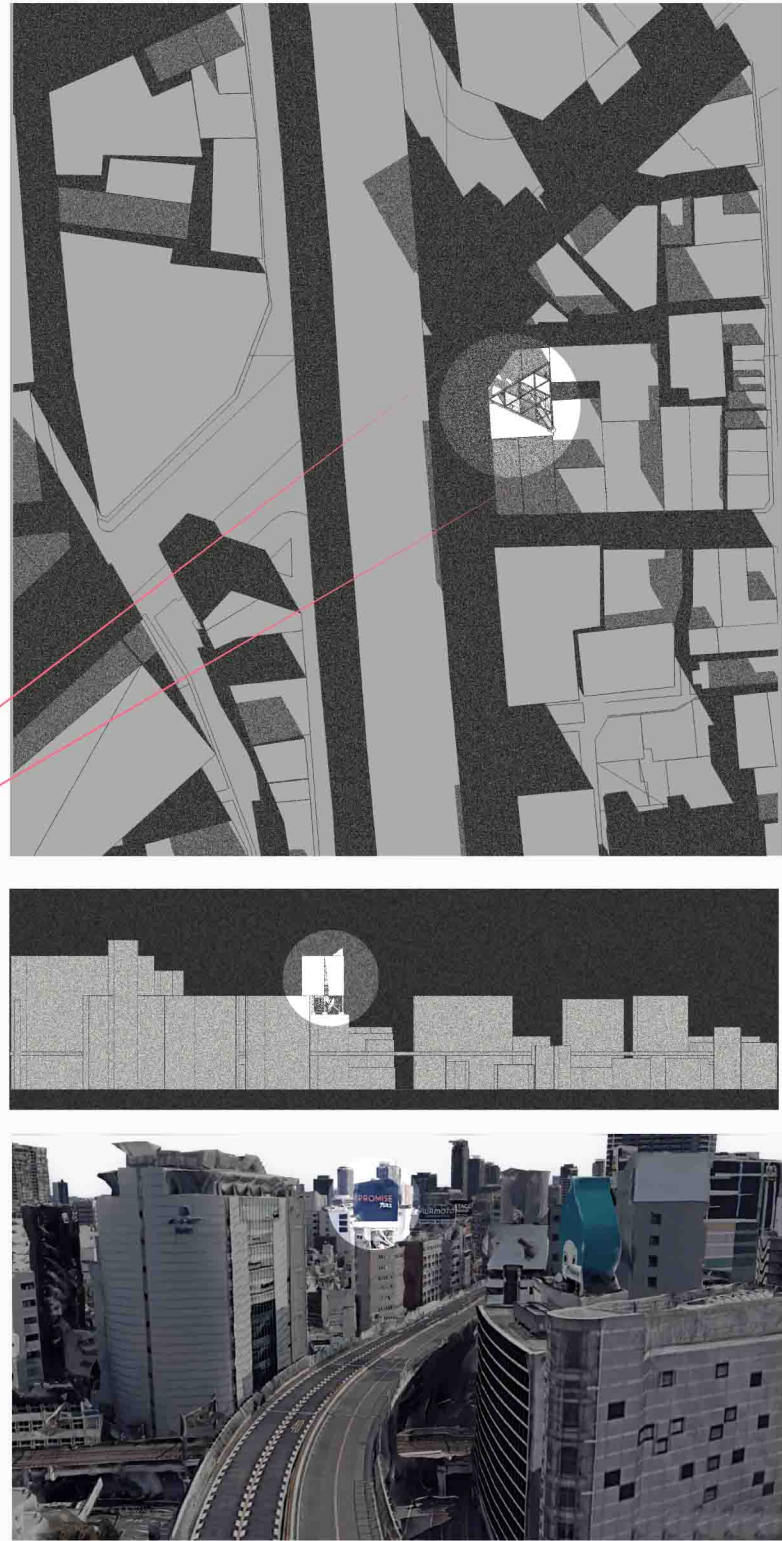
屋上暮らしの手引き

塔屋看板

都市は種々の看板で溢れている。
特に幹線道路沿いでは塔屋看板をたくき
見ることがあるだろう。
今回は梅田の繁華街に立つあるビルの塔屋看板
についてそこでの生活を夢想する。



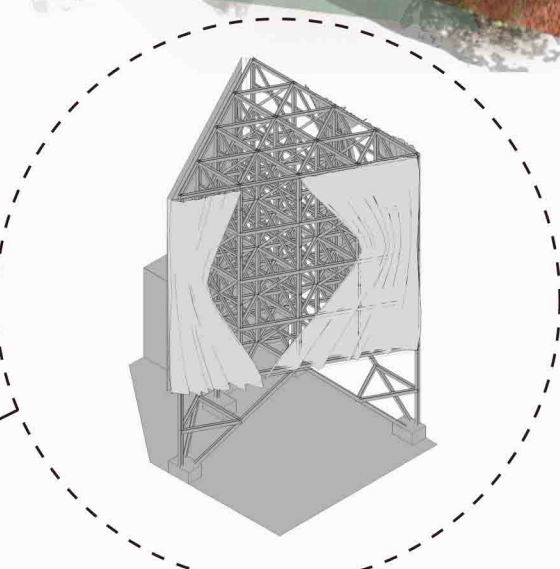
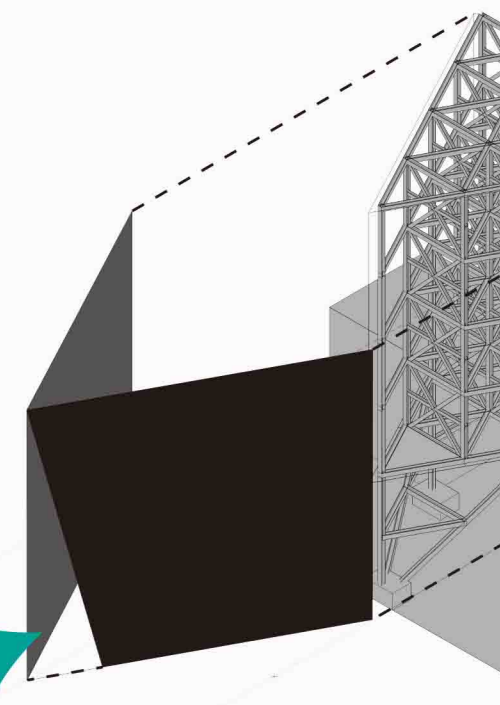
対象地周辺/塔屋看板マップ



今回対象にした塔屋看板は
長さ3400の部材のトラス構造である。

看板への操作

看板は道路から見えるように北西と南西を向いて張られている。
鉄骨構造がみえる東側とは対照的に閉じられた西側に看板に
切れ込みをいれる。
風が東西に吹き抜け、西日や都市の夜のネオンが取り入れられる。



看板はのちカーテン状にして
好きな時に開け放てるよう金具でいる。



S=1:50

住みつく

階段

塔屋看板に住みついた人々は上を目指し階段をかけた。
鉄骨の間を縫って縦横にめぐった階段は塔屋看板を突き抜け
都市の雑踏を全身に受けた。

囲い

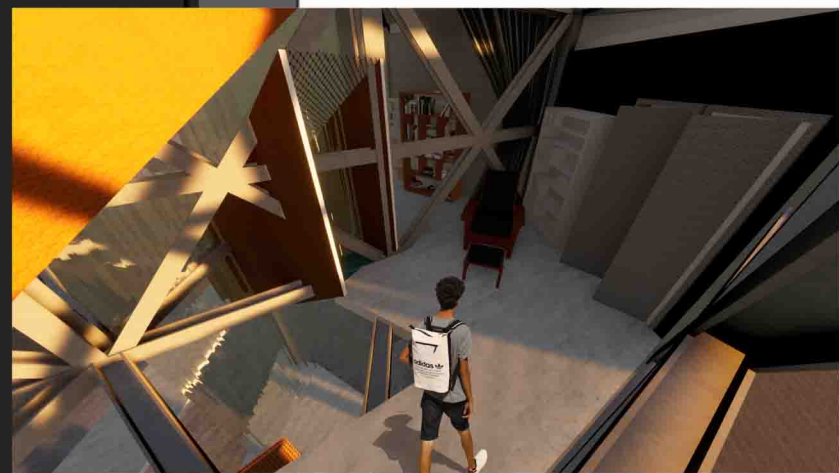
南北に向けた看板にはきまれた大きな空間は、
それだけで安心感があつた。
階段を横で覆うとそれにより空間は区切られることになった。

カーテン

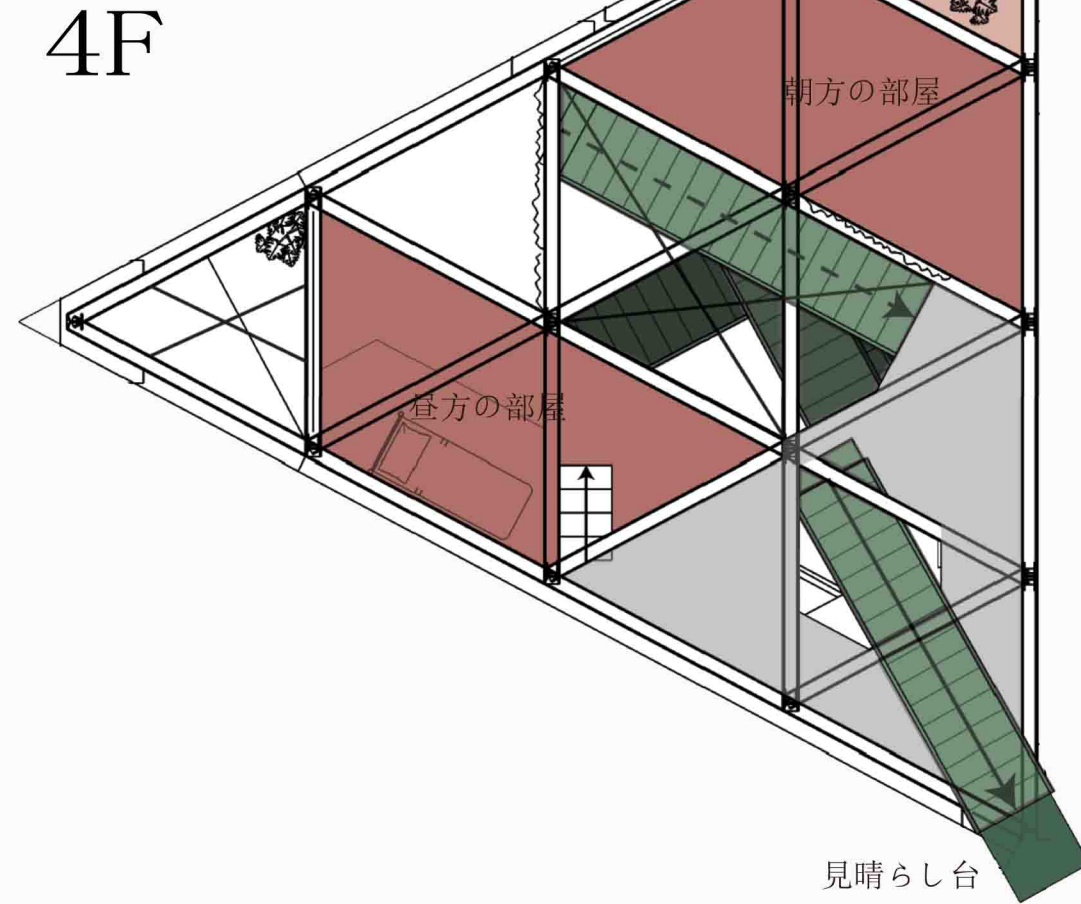
鉄骨部材にカーテンをかけ、小さな個人の部屋ができた。
さらに上から長い布をたらずと視線は下まで誘われ、そこを広場とした。
広場に集まった人々の音楽や光はカーテンを沿って
塔屋看板全体に広がるのである。



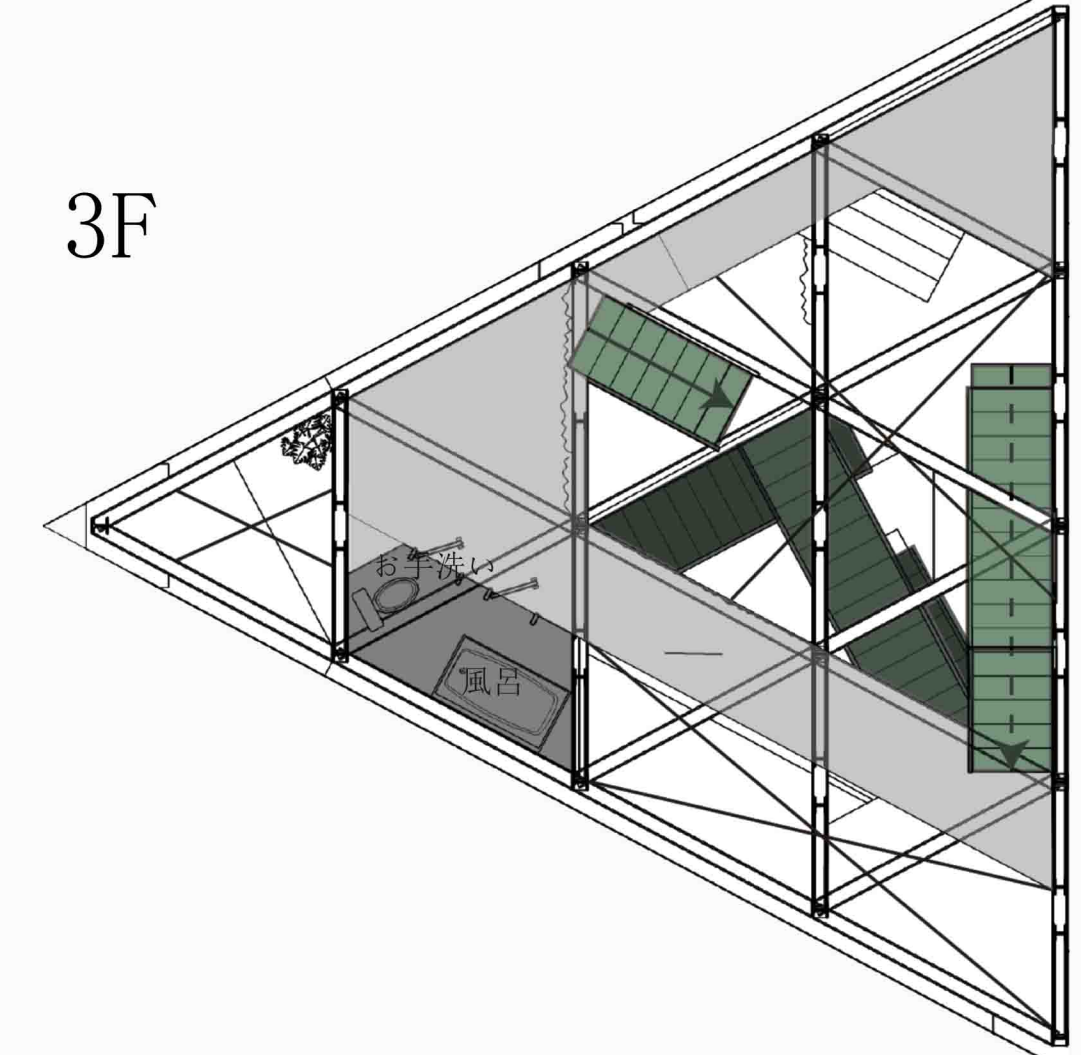
金属の壁で挟まれた階段は狭くひんやりとしている。
銅製メッシュの天井は時間の経過とともに色を変えながら光を通す。



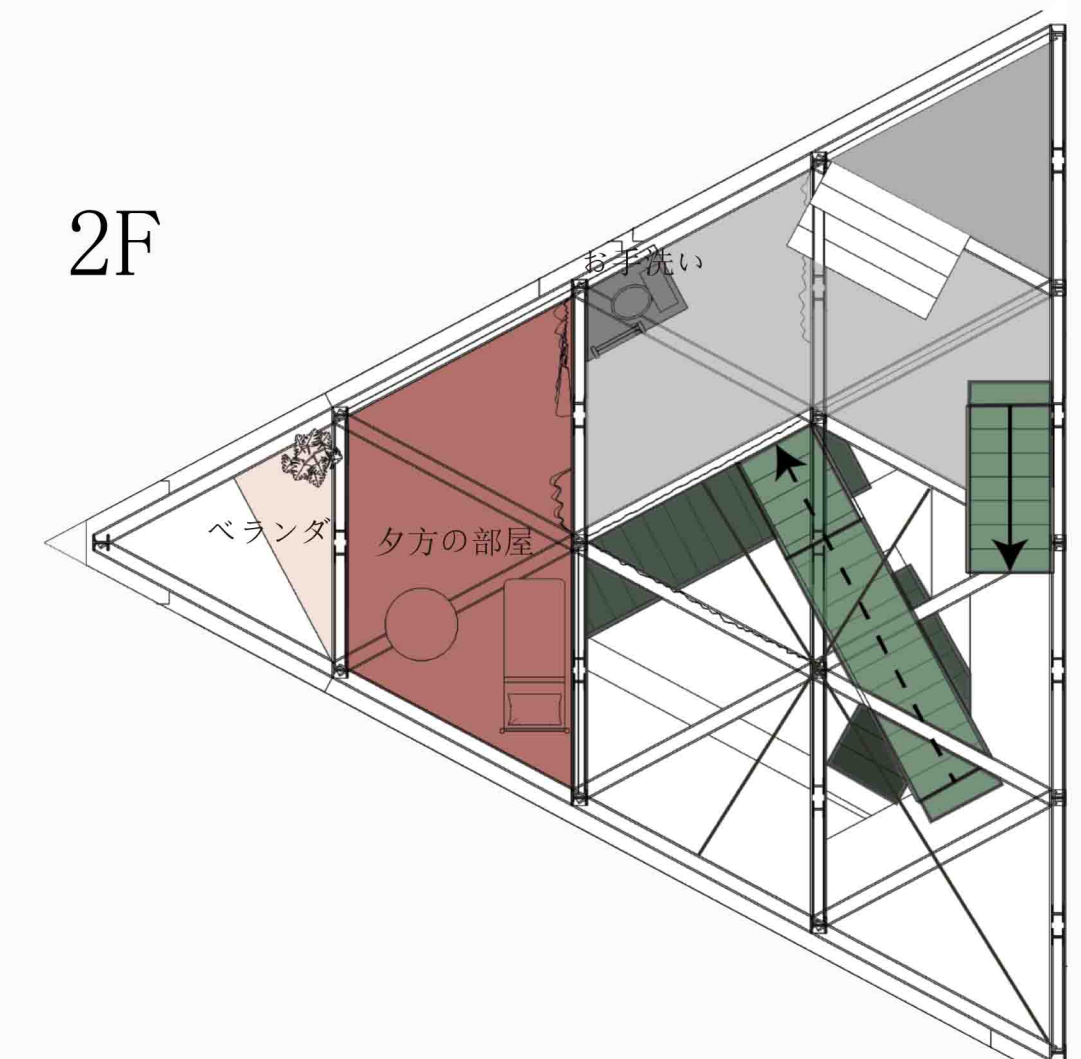
階段を抜けるとそこは朝日の差す空間である。
各部屋はカーテンで仕切ってみる。
しかし本は溢れ出て、誰かがまたその本に出会うのだ。



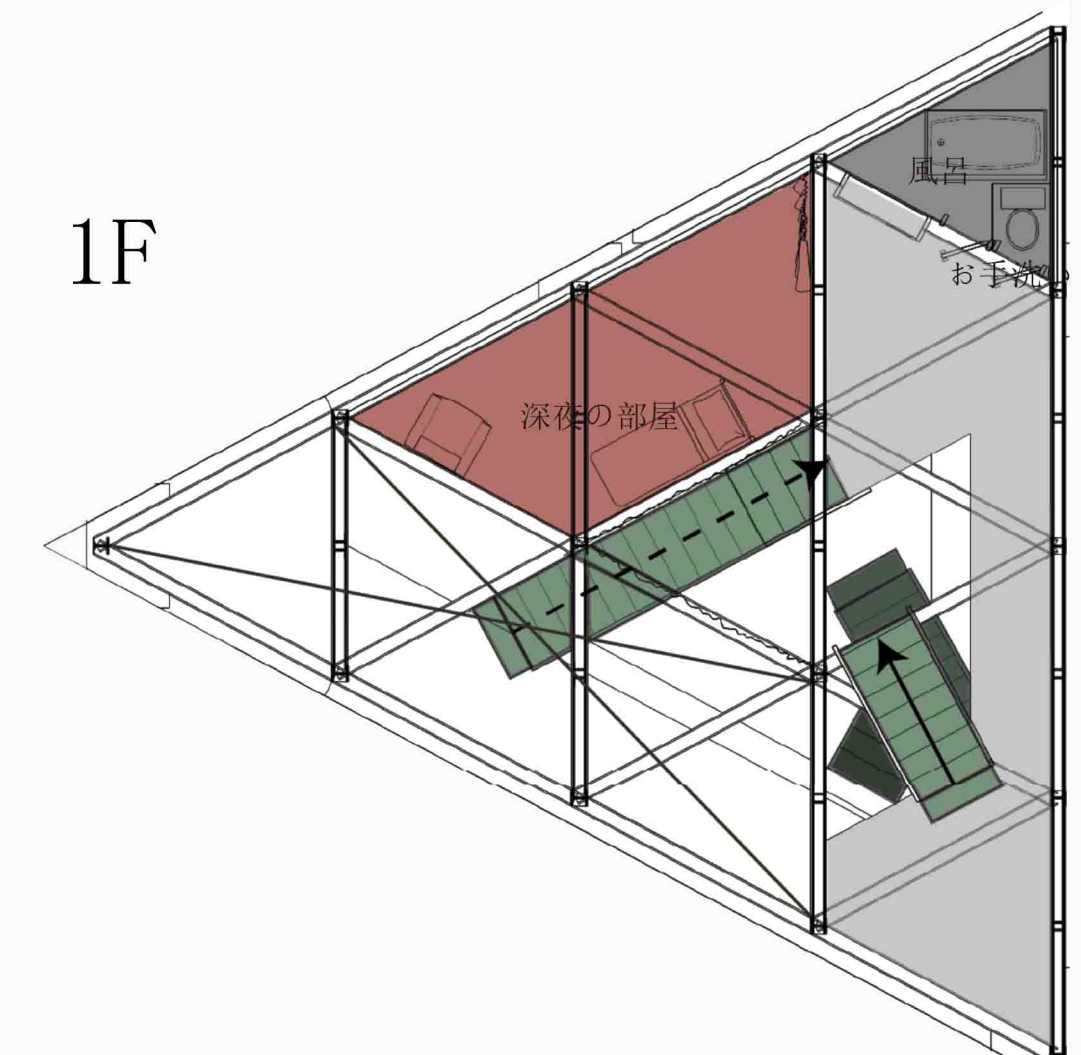
4F



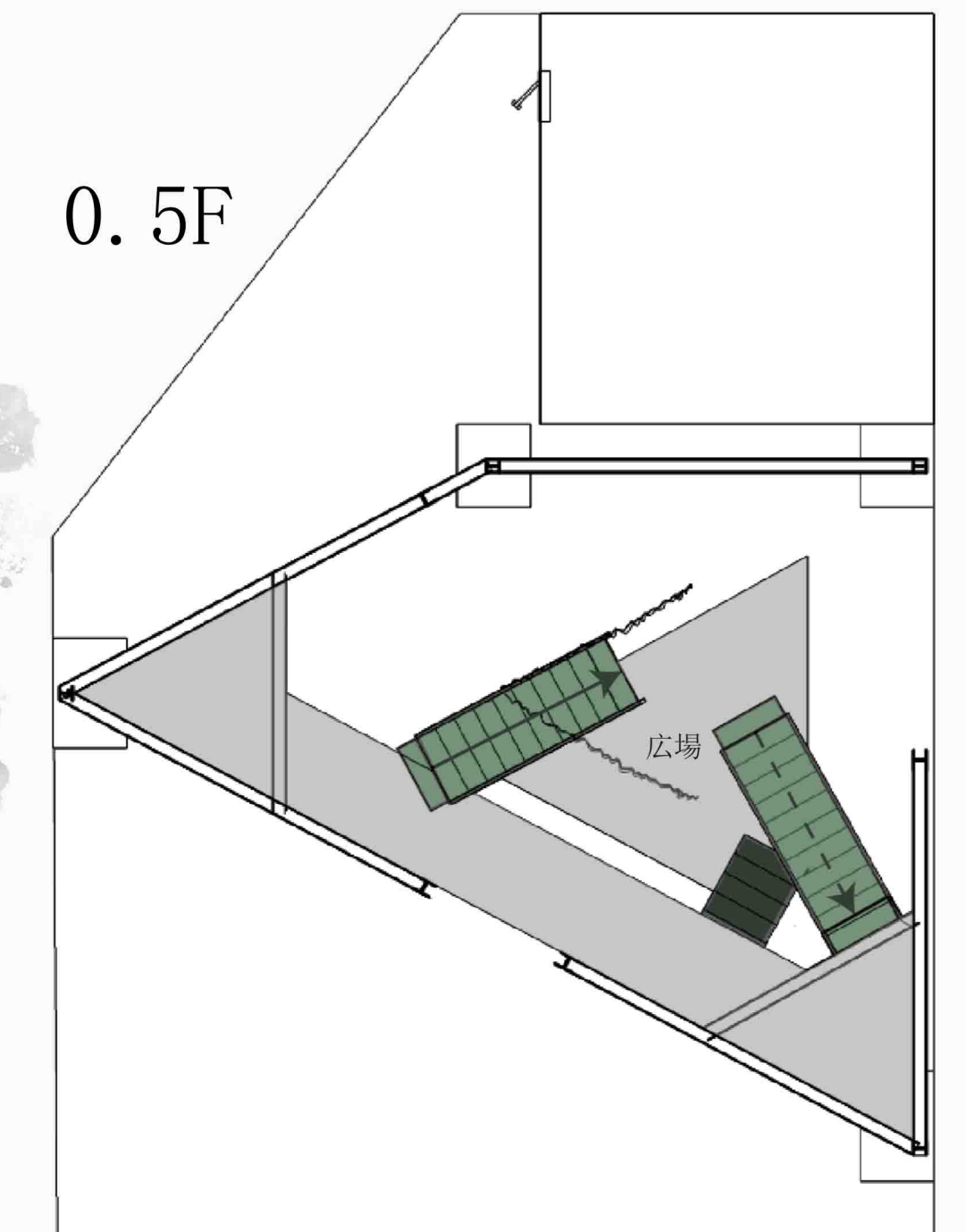
3F



2F



1F



0.5F

S=1:100

4つの部屋

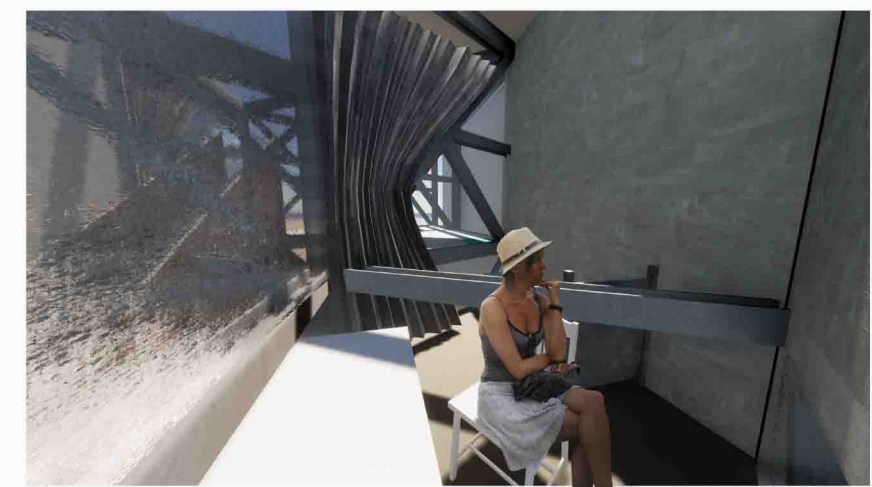
朝方の部屋

看板のない東側から朝陽のよく入る部屋である。
日が昇ると起きだして、窓際でトーストを食べる。ベランダで植物にたっぷり水をやる。
住人はこうして規則正しい生活を送る。



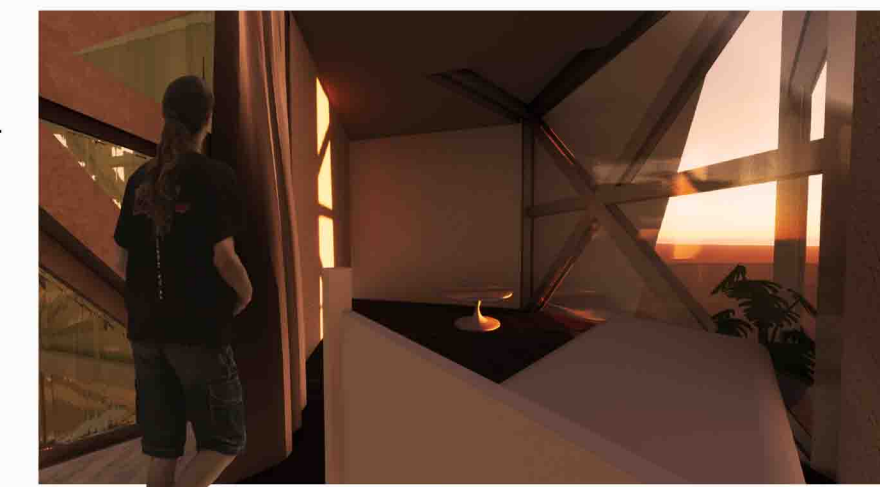
昼方の部屋

内向きに大きくガラスのある光の開放的な部屋だ。
ガラス越しに様子が見え、住人はいつも手を振って挨拶する。



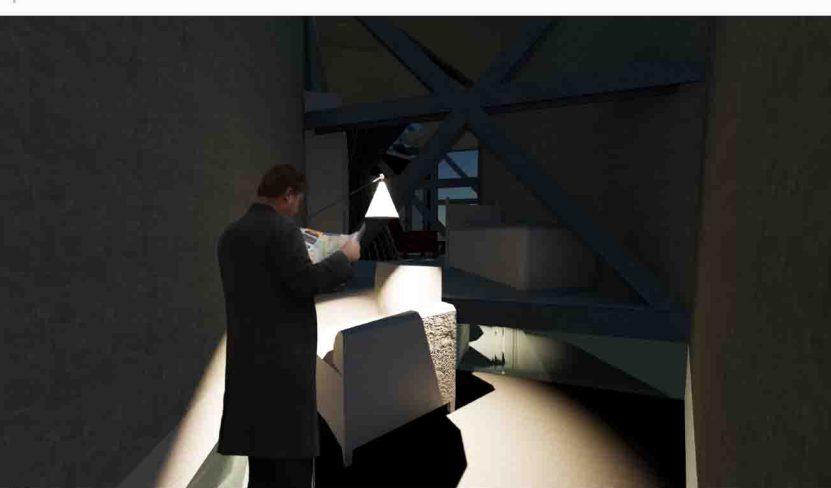
夕方の部屋

看板の間にあいたスリットから西陽が入ってくる。
たっぷり骨と骨の空間を埋め尽くすようである。
赤く染まった部屋の中で住人はまどろむ。



深夜の部屋

壁に囲まれた部屋、しかし一番奥のユニットはスラブ
が少し下がり都市の景色が足元に見える。
住人は暗闇に見え隠れするネオンのなか、
秘密の情念を育てている。



西立面図

南立面図

東立面図

北立面図

S=1:100